

2023/12/3(日)第43回牛久市親善柔道大会  
審判及び試合進行上の申し合わせ事項

国際柔道連盟試合審判規定および国内における「少年大会特別規定」によって試合を行います。

**【1、試合時間】**

小学生2分、中学生3分のランニングタイム(流し)とします。

※これは、同日に個人戦・団体戦両方に出場する選手の疲労を考慮した安全上の理由です。ご理解ください。

**【2、試合場】**

〈この項目について以下の通り変更します。〉

概ね正規の試合場ですが、セーフティーゾーンがやや足りません。ついては以下ご留意ください。

- ① 床や机など畳以外のものに触れた場合は「待て」とします。
- ② 隣接する試合場の場外で寝技に入っている場合は、寝技を優先してください。その際、隣接試合場の審判員は危険と判断した場合に早めの「待て」をかけて試合を一時止めてください。

**【3、試合】**

- ✓ 団体戦、個人戦ともにトーナメント方式とします。
- ✓ 大会進行の状況から試合場を変更することもあります。
- ✓ ロスタイムは設けずランニングタイム(流し)で行います。
- ✓ 審判規定以外の事態については審判長の判断で決めます。

**【4、勝敗】**

◇個人戦

- ✓ 勝敗の基準は、一本、技あり以上、指導2差以上とします。
- ✓ 試合時間内で勝負がつかない場合は、旗判定とします。

◇団体戦

- ✓ それぞれの対戦の勝敗基準は、一本、技あり以上、指導2差以上として、試合時間内で勝負がつかない場合は、引き分けとします。
- ✓ 大将戦終了後、チーム同士の勝ち数が同じ場合は内容を見て勝敗を決めます。但し、同点の場合は引き分け者による代表戦を一回行い必ず勝敗を決めます。引き分けが2つ以上ある場合は両監督立ち合いによる抽選でどの試合を行うか決めます。
- ✓ 代表戦において、時間内に決しない場合は、個人戦同様に旗判定で勝敗を決めます。

**【5、審判員】**

- ✓ 審判は3審制とします。

**【6、審判員交代のタイミングについて】**

- ✓ 個人戦の審判の交代のタイミングは、3試合主審押し出しでお願いします。
- ✓ 団体戦の審判の交代のタイミングは、7人制3-2-2、男子2-2-1、女子1-1-1で大将戦の主審を押し出す形にて交代をしてください。なお、代表選となった場合は大将戦の主審が主審をお願いします。
- ✓ スムーズな大会進行のため、ご自身の所属団体の選手の対戦でも、主審・副審を問わず審判を継続してください。

**【7、申し合わせ事項】**

- ✓ ランニングタイムのため、できるだけ旗判定とならないように、早めの「指導」をお願いします。
- ✓ 指導を与えたり、服装の直しなどに時間を要すると思われる場合は、タイマーを止めてください。その際はタイマー係にT字のジェスチャーをお願いします。
- ✓ 消極的な柔道については、15秒程度で「指導」をお願いします。
- ✓ 柔道着の乱れ及び髪結び直しについては、罰則を適用しませんので、口頭指導をお願いします。
- ✓ 止血や手当については、正式にドクターを配置しているわけありませんので、同じ場所からの3度目の出血で棄権扱いとする規定は適用しません。
- ✓ 個人戦において、一人の選手が続けて試合となる場合は、1試合分のインターバルタイムを取ってください。
- ✓ 試合は安全を第一に行う。審判員は危険回避のため状況に応じて「待て」等の必要な処置をお願いします。

## 【8、ルールの確認】

以下は、私ども牛久市柔道協会が、審判技術向上のために指導員同士でディスカッションし、ここ数年で改正された部分やルールと少年規程について取りまとめたものです。参考にさせていただくとともに、誤認している部分がありましたら、どうぞご指南ください。

- ✓ 立ち姿勢においての肩三角グリップは直ちに「待て」。「待て」が間に合わず投げた場合は反則負け。
- ✓ 両袖を持つての投げ技について。袖釣込腰・大外刈り・外巻き込み・小内刈・大内刈など受け身が取りづらい状態の技を施した場合は反則負け。支え釣り込み足、足払いなどの技には反則を与えない。
- ✓ 絞め技は行わない。意図せず絞めが入ってしまった場合は「待て」をかける。
- ✓ 場外の指導について
  - (1、片足が出た場合)
    - 自らから出て、すぐに戻るまたは、技をかけた場合は「何もとらない」。
    - 自らから出て、何もしない場合は「指導」
  - (2、両足が出た場合)
    - 技の攻防で出た場合は「待て」
    - 自ら出た場合は「指導」。※自ら出ているのか、押し出されているのかを見極めて指導を与えてください。
  - (3、寝技)
    - 場内からの攻防の流れですぐに抑え込みに至りそうな場合は展開を見る
    - 場内からの攻防が途切れた場合は「待て」
- ✓ 反則者への対応
  - 柔道精神に反する行為による反則負けは、それ以降の試合に出場できないこととします。
  - それ以外のダイビング・ヘッドディフェンス・両袖の技・指導の累計などによるものはそれ以降の試合に参加できるものとします。
- ✓ 背部・帯・小学生については奥襟などの変則的な組み方は、瞬間的(1~2秒)もしくは技をかけている時は「指導」の対象ではありません。ただし、これらの変則的組み方で技をかけ終えた際には、一旦標準的組み方に戻るか手を離す必要があり、そのままあらためて技をかけた場合は「指導」となります。また、両手で片襟を持つ組み方については、攻撃準備であれば少し時間を与え、防御のためであれば3秒程度で「指導」となります。
- ✓ 両膝つきの背負い投げなどについて、同時もしくは時間差で瞬間的にでも両膝を付いたものは「指導」とします。内側の膝、いわゆる「内膝」についても対象となります。
- ✓ 組み手争いの際、どちらが組もうとしているか、どちらが嫌がっているかよく見極めて「指導」を与えてください。
- ✓ かけ逃げに関して、両手を離す。相手が全く崩れていないにも関わらず、自分が倒れ込むといった様子を見て、「指導」を与えてください。
- ✓ 寝技の攻撃において、頸椎を抑え付けての返しは重篤な頸椎損傷の危険があることから直ちに「待て」をかける。